てんぐ新聞

'16.1.No.223
発行 市岡昭
責任 佐
0883-88-5292

穏やかにはじまる

新年明けましておめでとうございます。皆様、お元気で新しい年をお迎えのことと存じます。今年も祖谷、てんぐ新聞をよろしくお願い致します。

それにしても、なんと穏やかな年末始であることか。雪景色と正月は同じ様な祖谷ではないこんなのはじめてかもし、高い山は、少し白くなったものの、すぐ消えてしまう気温の高さ。十月半ばには、梅の花や桃の花が咲いているという話題が祖谷でもあった。

フキノトウも顔を出してるだけではなく、緑の葉が残っている。アジサイだって新しい葉が一センチ位みられたり、所によっては、まだまだい葉が緑でついている。

ミソサザエが鳴いていたりと、もう、春のきざし。

「元旦は、すべての人の誕生日」とも言われる位だから、楽しみ、大いに遊んでもいいのだろうが、一人暮らしの身にとっては、お金や正月は、動かず、時のたつのをじっと待つに限ります。テレビやラジオでは、にぎやかに新年だ新年だとうかれているが、子供の時の様なことはないし、某落の神社だって誰もみえない。そういえば、鏡の音もあったけ……。いつもなら、新年になるとよく聞こえてきたのに、今年は静かなものだ。とにかく、雪がないのは暮らすには良いが、やっぱり、降る時季には降らないとおちつかない。いつもなら「冬眠」だとコタツにもぐり込み、昼寝と読書三昧なのに、おちつかない。寝ん寝しているのは、私だけじゃなくて、草食中の鹿やうさぎも容易に食事が出来て、太るのを心配してるかも知れないなあ。

朝起きると東の空は厚い雲におおわれていて、ご来光は無理！と判断してたら、ちょっと顔出しましたが！あまり美しいとはいえませんが！なんだか結構くはなりました。

昨日から今日に変わっただけなのに、この時だけは、去年から今年になる。

たったそれだけなのに何かが変わる様に感じてしまう。どうしてなんだろうなんて、くだらない事を考える。それだけ穏やかなのかも知れない。

春イベントがある昨今、正月より面白い、楽しいイベントが多すぎるので、一年が走ってすぎ去るのでしょか。ゆっくり歩いて、すごしたいもんです。今年は。